

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代 表 者 氏 名	尾藤昭夫	所 属	東洋大学現代社会研究所						
研究会等名称	事実認定－犯罪捜査と記憶の研究会－シンポジウム犯罪捜査と記憶 3 の報告会								
成 果 概 要	1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） <table border="0"> <tr> <td>会員</td><td>5 名（うち認定心理士</td><td>1 名）</td></tr> <tr> <td>非会員</td><td>3 名（うち認定心理士</td><td>0 名）</td></tr> </table> 2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください） 日本心理学会で本研究会主催のシンポジウム「犯罪捜査と記憶 3－事実認定者に当事者の声は届いているか」を開催した。しかし、今年はコロナでウェブ開催であったこともあり、日本心理学会にエントリーしていない会員が多く、報告会を開いてほしいと要望された。 まず、尾藤がシンポでの話題提供、指定討論、リプライまでを要約した発表を行い、その後、法学者の中園先生から、法学者と心理学者の協働の困難さと意義についての講演、そして、尾藤が弁護側と訴追側の協働の困難さと意義についての話をさせていただいた。 中園先生のご講演の内容は以下の通り。法学では、事実認定における真実発見と人権の保護の点を比べると人権の保護が重視される。特に、当事者の声といった場合、被疑者の黙秘権が重要である。しかし、被疑者の黙秘権を行使し、ポリグラフ検査を行わないと、捜査側が被疑者が事件の記憶を持っているかどうかはわからなくなる。この場合、事件の記憶を持っていないのにそれがわからないということが、集合的無知の働きによって捜査側の間違った判断をする導く可能性があることがわかった（シンポジウムでの綿村先生、私の発表、リプライから）。したがって、法学の常識も検討しなおしてみるべきところがあるかもしれないとのお話があった。 尾藤の話の内容は以下の通り。警察にとって一番大切なのは被害者逮捕ではなく、さらなる被害者を出さないこと、被害者が再被害を受けないことである。確かに、冤罪と犯人の取逃がしはトレードオフの関係にある。しかし、冤罪とさらなる被害者が出さないということの間は必ずしもトレードオフの関係であるわけではない。なぜなら、防犯ということを考えることができるからである。防犯という観点で、普通の人の普通の生活を守りつつ、冤罪、誤認逮捕を出さない、という難しい問題にアプローチすることができる。そして、こういった問題の立て方なら、弁護側の先生方と訴追側の人間が共同して事に当たるということも不可能ではないのではないかとお話をさせていただいた。 参加者から一つは捜査場面での事実認定の意思決定過程を調べられないか、という話が合った。 それと、尾藤は事実認定の情報処理過程は並列的処理と継時的処理へという一方向的なものではなく、証拠の重みづけ過程とストーリー作成過程という 2 種類の処理の間を循環し、螺旋階段上に真理に近づくようなもので、新しいモデルが要請されるのではという話をした。参加者からトップダウンとデータドリブンという見方が有効ではないかとの指摘があった。			会員	5 名（うち認定心理士	1 名）	非会員	3 名（うち認定心理士	0 名）
会員	5 名（うち認定心理士	1 名）							
非会員	3 名（うち認定心理士	0 名）							

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
(事実認定—犯罪捜査と記憶の研究会—シンポジウム犯罪捜査と記憶3の報告会)				
研究集会開催日： 令和3年3月25日(木)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	中園江里人	近畿大学法科大学院		
2	伊東裕二	慶応義塾大学	○	
3	桐生正幸	東洋大学	○	○
4	松田いづみ	青山学院大学	○	
5	大上 渉	福岡大学	○	
6	福島由衣	日本大学	○	
7	小島理恵	名古屋大学	○	
8	尾藤昭夫	東洋大学現代社会研究所	○	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2021年3月26日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 事実認定—犯罪捜査と記憶の研究会

研究会番号 研20005

助成金額 ￥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2021年3月25日	講師謝礼（1名）	￥30,000
	ズーム有料コース（Pro）1か月分	￥2,200

支出合計 ￥32,200